

県外派遣報告書

審判員名	眞榮喜 工	所属	クラブ連盟
大会名	平成27年度 第26回 関東高等学校バスケットボール新人大会		
期間	平成28年2月6日(土)、7日(日)		
会場	小田原アリーナ(小田原市総合文化体育館)		

スケジュール

期 日	内 容	場 所
2月5日(金)	審判会議・レクチャー	グランドホテル神奈中 平塚
2月6日(土)	1、2回戦	小田原アリーナ
2月7日(日)	準決・決勝	小田原アリーナ

会議 講義 内容

関東ブロック長 安西氏

インターハイ予選から新チームに切り替わっているチームもあれば、ウィンターカップ終了後新チームになって1か月程しか経っていないチーム、次年度新生の加入を想定したチーム作りをしているチームなど、チーム状況は様々である。しかし、我々の行うバスケットボールの規則というのは変わらない。割り当てられた目の前の試合を公正・公平に、真摯に対応してもらいたい。

指名審判員 稲葉氏 「シリンダーとリーガル・ガーディング・ポジション」

我々が判定するにあたっての材料(情報)とはなにか。規則や技術の理解、プレイヤーの特徴、チームの戦略、点差と時間帯、ファウルの数、体格差やフィジカルの違い、今のプレイと前のプレイとの相違、後のプレイへの影響、重要なマッチアップ等々様々ある。これらの情報をインプットし、判定としてアウトプットする。その中でも最も重要であり基盤となるのが規則の理解で、そこに「シリンダーの概念」と「リーガル・ガーディング・ポジション」がある。どちらが先に位置を占めたのか、どちらが不当に自分のシリンダーを外れ、相手の権利を侵したか。これはプレイを瞬間的に見ても判定することは出来ない。そのプレイをどこから(始まりから)見ていたかが重要である。試合の中で最初に事が起きたときにしっかりと判定する。最初だから厳しくではなく、最初にその試合の基準を示す。そして、一つ一つのプレイに対して公平・公正に判定し続けることが、良い試合運営となる。

指名審判員 野口氏

ファウルもヴァイオレーションも、白は白で黒は黒。「～だろう。」「たぶん、～。」は絶対にNG。信頼を損なうような根拠のない判定をしないために、確認することが大切。「それはファウルだ！！」と吹くのではなく、「それは規則に反するので、次は改善してください。」というような意を込めて判定をする。規則に則り、正しく判定・運営し、選手・チームを正しく導くことが大切。

関東ブロック長 安西氏

「より良い位置・角度を求め続ける」ということは、審判員としての最低限のモチベーションである。これがなければライセンスを返上すべきであり、四方向からのリスペクトなんて成し得ない。常に「今の判定がどうだったか。」「今見ている場所が本当にベストなのか。」「今見えている以外に何か事が起こっていないか。」など、コート上で困ってほしいし、困って当然。もしなければ、今以上の成長は望めない。

規則、技術、心理を理解し、コーチやプレイヤーのニーズが何なのかを捉え、コミュニケーションをとることが大切。プレイヤーの多くは確信犯であり、やったこともやられたことも覚えている。その試合の中で最初に起きたときにしっかりと判定する。一度見逃したとしても、最低でも二回目には判定することで繰り返させない。火種になりそうなものを放っておかない。一貫性を持って判定をし、やり返しを起かさせない。リアクションではなく、アクションを捉えること。

試合の中で、どこをどのタイミングで見に行けば良いかわからず、迷ってしまう人がいる。「見たいものを足を運んで見に行けば良い。」(大事なところ・危険なところ)
 「掘り所はルール」その人物が悪いのではなく、その行為が規則に反するからファウルやヴァイオレーションなのである。一つ一つの判定に対しての根拠を明確にすることが信頼される審判として重要なことである。

実技

	期 日	平成28年2月6日	女子	2回戦
担当試合	対戦カード	東京成徳大学(東京) VS 県立市ヶ尾(神奈川)		主審
	相手審判	横山 崇斗 氏 (千葉)		

ミーティング内容 主任 佐田 幸一 氏(山梨)

試合の入りとしての基準作りは良かった。その中で、相手の鳴らせなかったものの中で、どうしても鳴らさなければならぬものを、どのようなタイミングで、どのような位置取りで吹くべきかの工夫が必要。角度が浅く、スペースの甘いものを無理に吹くことがあり、自分の首を絞めかねないので、気を付けること。ショットクロック等、ヴァイオレーション後に再開させる位置をきちんとすること。

強いチームが、身体の大きさや強さによって、不当な利益を得ないように、正しく強いチームが勝ちあがるように意識して臨んだ。今後は相手審判も思い切りよく判定に向かえるような試合運営を心掛けたい。

	期 日	平成28年2月7日	男子	決勝
担当試合	対戦カード	八王子学園八王子(東京) VS 土浦日本大学(茨城)		U2
	相手審判	R:安西 郷史 氏(本部) U1:清水 幹治 氏(神奈川)		

ミーティング内容 主任 茂泉 圭治 氏(神奈川)

目の前をこぼさないこと。試合の中で1対1に視野を絞りすぎてしまうことがある。より大きく全体を見て試合を感じ、クルー2人が何を気にしているのかを感じられるように。見せ方、伝え方の工夫が必要。

ハイレベルな試合の為、余計なものを吹いて試合を止めてしまわぬようにと臨んだ。それ故に、試合の入り方として笛が重くなり、二人のクルーに余計な気遣いをさせてしまった。どのような試合でも、規則は同じであり、自分の中により明確な判定基準を持って、今後の試合に繋げたい。

全体の感想

今大会でブロック大会を勇退となる野口氏の最後の大会に参加できたことを幸せに思います。野口氏から「関東・東京の仲間と支え合って競い合い、仲間がいたからこそここまでやってこれた。」とありましたが、関東大会に派遣されて思うことは、同じ志を持って、同じ苦しみの中でもがいている仲間がいるということ。諸先輩方や同世代に支えられ、今の自分があり、これからの自分を築いていけると思います。今後も県内外問わず繋がりを大切に、どのようなカテゴリーでも自分という存在を表現できる力を付け、恩返しできるように努めます。

この度、神奈川県協会の方には細部にわたるまで御配慮頂き本当にお世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。今回の経験を少しでも地元に戻元し、切磋琢磨し、精進して参りますので、今後も御指導の程、宜しく願い致します。